

6.1 不等式の性質

実数の大小関係に関する次の法則が成り立つ..

[法則 6.1.1] 任意の実数 a, b, c について, $a < b$ かつ $b < c$ ならば, $a < c$.

[定理 6.1.1] 任意の実数 a, b, c について以下のことが成り立つ：

$a < b$ かつ $b \leq c$ ならば, $a < c$;

$a \leq b$ かつ $b < c$ ならば, $a < c$;

$a \leq b$ かつ $b \leq c$ ならば, $a \leq c$.

証明 例として “ $a < b$ かつ $b \leq c$ ならば $a < c$ ” を証明する.

実数 a, b, c について $a < b$ かつ $b \leq c$ と仮定する. $b \leq c$ なので, 法則 2.5.1 により, $b < c$ または $b = c$. $a < b$ なので, $b < c$ のとき法則 6.1.1 により $a < c$. また, $a < b$ なので, $b = c$ のとき $a < c$. このように, $b < c$ のときも $b = c$ のときも $a < c$. (証明終了)

[法則 2.5.1] 任意の実数 a, b について, $a \leq b \iff a < b$ または $a = b$.

[法則 6.1.1] 任意の実数 a, b, c について, $a < b$ かつ $b < c$ ならば, $a < c$.

[定理 6.1.2] 任意の実数 a, b, c, d について,

$$a < b \text{ かつ } c < d \text{ ならば } a + c < b + d ,$$

$$a \leq b \text{ かつ } c \leq d \text{ ならば } a + c \leq b + d .$$

証明 例として “ $a < b$ かつ $c < d$ ならば $a + c < b + d$ ” を証明する.

$a < b$ かつ $c < d$ と仮定する. $a < b$ なので, 法則 2.5.3 により

$$a + c < b + c .$$

また, $c < d$ なので, 法則 2.5.3 により $c + b < d + b$, つまり

$$b + c < b + d .$$

このように, $a + c < b + c$ かつ $b + c < b + d$ なので, 法則 6.1.1 により

$$a + c < b + d .$$

(証明終了)

[法則 2.5.3] 任意の実数 a, b, c について, $a < b$ ならば $a + c < b + c$.

[法則 6.1.1] 任意の実数 a, b, c について, $a < b$ かつ $b < c$ ならば, $a < c$.

実数 a, b, c に対して, “ $a < b$ かつ $b < c$ ” ということを $a < b < c$ というように, “ $a \leq b$ かつ $b \leq c$ ” ということを $a \leq b \leq c$ というように書き表す.

[定理 6.1.3] 任意の実数 a, b, c, d について,

$$0 \leq a < b \text{ かつ } 0 \leq c < d \text{ ならば } ac < bd ,$$

$$0 \leq a \leq b \text{ かつ } 0 \leq c \leq d \text{ ならば } ac \leq bd .$$

証明 例として “ $0 \leq a \leq b$ かつ $0 \leq c \leq d$ ならば $ac \leq bd$ ” を証明する.

$0 \leq a \leq b$ かつ $0 \leq c \leq d$ と仮定する. $a \leq b$ かつ $c \geq 0$ なので, 定理 2.5.7 により $ac \leq bc$. また, $c \leq d$ かつ $b \geq 0$ なので, 定理 2.5.7 により $cb \leq db$. このように, $ac \leq bc$ かつ $bc \leq bd$ なので, 定理 6.1.1 により $ac \leq bd$. (証明終了)

[定理 2.5.7] 任意の実数 a, b, c について, $a \leq b$ かつ $c \geq 0$ ならば, $ac \leq bc$.

[定理 6.1.1] 任意の実数 a, b, c について, $a \leq b$ かつ $b \leq c$ ならば, $a \leq c$.

[定理 6.1.4] 任意の実数 a と b について,

$$0 \leq a < b \text{ ならば } a^2 < b^2 ,$$

$$0 \leq a \leq b \text{ ならば } a^2 \leq b^2 .$$

証明 例として “ $0 \leq a < b$ ならば $a^2 < b^2$ ” を証明する.

定理 6.1.3 により, 任意の実数 a と b について,

$$0 \leq a < b \text{ かつ } 0 \leq a < b \text{ ならば, } aa < bb ;$$

つまり, $0 \leq a < b$ ならば $a^2 < b^2$.

(証明終了)

[定理 6.1.3] 任意の実数 a, b について, $0 \leq a < b$ かつ $0 \leq c < d$ ならば,
 $ac < bd$.

実数 a と b について, $a^2 < b^2$ であるなら $a < b$ であるとは限らない;
例えば, $a = 2$, $b = -3$ とすると, $a^2 < b^2$ であるが $a \not< b$ である.

実数 a と b について、 $a^2 < b^2$ であるなら $a < b$ であるとは限らない；
例えば、 $a = 2$, $b = -3$ とすると、 $a^2 < b^2$ であるが $a \not< b$ である。しか
し、 $b \geq 0$ であれば、 $a^2 < b^2$ であるなら $a < b$ である。

実数 a と b について、 $a^2 < b^2$ であるなら $a < b$ であるとは限らない；
例えば、 $a = 2$, $b = -3$ とすると、 $a^2 < b^2$ であるが $a \not< b$ である。しか
し、 $b \geq 0$ であれば、 $a^2 < b^2$ であるなら $a < b$ である。

[定理 6.1.5] 任意の実数 a と b について以下のことが成り立つ：

$a^2 < b^2$ かつ $b \geq 0$ ならば、 $a < b$ ；

$a^2 \leq b^2$ かつ $b \geq 0$ ならば、 $a \leq b$.

[定理 6.1.5] 任意の実数 a と b について以下のことが成り立つ:

$$a^2 < b^2 \text{ かつ } b \geq 0 \text{ ならば, } a < b ;$$

$$a^2 \leq b^2 \text{ かつ } b \geq 0 \text{ ならば, } a \leq b .$$

証明 例として “ $a^2 \leq b^2$ かつ $b \geq 0$ ならば, $a \leq b$ ” を証明する.

$b \geq 0$ と仮定する. $a > b$ ならば, 仮定 $0 \leq b$ より $0 \leq b < a$ なので, 定理 6.1.4 により $b^2 < a^2$; つまり, $a > b$ ならば $a^2 > b^2$. 対偶をとると,

$$a^2 \not\leq b^2 \text{ ならば } a \not\leq b .$$

法則 2.5.2 により,

$$a^2 \not\leq b^2 \iff a^2 > b^2, \quad a \not\leq b \iff a > b,$$

従って, $a^2 \leq b^2$ ならば $a \leq b$.

つまり, $b \geq 0$ とすると, $a^2 \leq b^2$ ならば $a \leq b$. 故に, $a^2 \leq b^2$ かつ $b \geq 0$ ならば, $a \leq b$. (証明終了)

[定理 6.1.4] 任意の実数 a, b について, $0 \leq a < b$ ならば $a^2 < b^2$.

[法則 2.5.2] 任意の実数 a, b について, $a \not\leq b \iff a > b$.

例えば、3 と 5 について $3 < 5$ であるが、それらの逆数 $\frac{1}{3}$ と $\frac{1}{5}$ については $\frac{1}{3} > \frac{1}{5}$ である。

例えば、3 と 5 について $3 < 5$ であるが、それらの逆数 $\frac{1}{3}$ と $\frac{1}{5}$ については $\frac{1}{3} > \frac{1}{5}$ である．一般的に次の定理が成り立つ．

[定理 6.1.6] 任意の実数 a と b について、

$$0 < a < b \text{ ならば } \frac{1}{a} > \frac{1}{b} ,$$

$$0 < a \leq b \text{ ならば } \frac{1}{a} \geq \frac{1}{b} .$$

[定理 6.1.6] 任意の実数 a と b について,

$$0 < a < b \text{ ならば } \frac{1}{a} > \frac{1}{b},$$

$$0 < a \leq b \text{ ならば } \frac{1}{a} \geq \frac{1}{b}.$$

証明 例として “ $0 < a < b$ ならば $\frac{1}{a} > \frac{1}{b}$ ” を証明する.

$0 < a < b$ と仮定する. $a > 0$, 法則 6.1.1 により $b > 0$, 定理 2.5.8 により $ab > 0$, 従って定理 2.5.14 により $\frac{1}{ab} > 0$. $a < b$ かつ $\frac{1}{ab} > 0$ なので, 法

則 2.5.3 により $a\frac{1}{ab} < b\frac{1}{ab}$, よって $\frac{1}{b} < \frac{1}{a}$. (証明終了)

[法則 6.1.1] 任意の実数 a, b, c について, $a < b$ かつ $b < c$ ならば, $a < c$.

[定理 2.5.8] 任意の実数 a, b について, $a > 0$ かつ $b > 0$ ならば, $ab > 0$.

[定理 2.5.14] 任意の実数 a について, $a > 0$ ならば $\frac{1}{a} > 0$.

[法則 2.5.3] 任意の実数 a, b, c について, $a < b$ かつ $c > 0$ ならば, $ac < bc$.

変数 x に関する不等式とは、 x の値に関する条件を表す不等式のことである。2.9 節で述べたように虚数には大小関係がないので、特に断りがない限り、不等式に表れる変数は実数を表す。それで、“実数を表す変数 x に関する不等式” というべきところを多くは“変数 x に関する不等式” と略す。